

2021年3月1日

福島県会津若松市のスマートシティA i C Tへの参画について

MS & ADインシュアランス グループの三井住友海上火災保険株式会社（社長：原 典之）は、3月より、福島県会津若松市のスーパーシティ構想の推進拠点であるスマートシティA i C T（以下、「A i C T」）に参画し、スマートシティの実現に向けた支援を開始します。

当社は、保険商品・サービスの提供を通じた新たなソリューション開発により、スマートシティの実現に貢献していきます。

1. 背景

会津若松市は、現在国が公募している「スーパーシティ」構想の区域指定の応募に向け、I C Tをさまざまな分野で活用する「スマートシティ会津若松」を推進しています。A i C Tに参画した各企業が、データ連携事業および先進的サービスを実施する事業者の候補となり、準備を進めています。

スマートシティの実現には、防災、ヘルスケア、モビリティ等の幅広い分野におけるデータ連携基盤の活用を通じた先進的サービスの開発や実証調査等が必要であり、保険による支援が期待されています。こうした環境下、当社およびMS & ADインターリスク総研株式会社（社長：中村 光身）が保険事業やリスクマネジメントに関するコンサルティング事業等で培ったさまざまな分野におけるノウハウや知見を活かし、スマートシティ実現に向けたソリューション開発を拡充すべく、A i C Tへの参画にいたしました。

2. 今後の予定

(1) スマートシティのリスクに対応する保険の検討を開始

スマートシティの実現には、ヘルスケア、行政サービス、キャッシュレス、防災、エネルギー、観光、食・農業、ものづくり、教育、地域活性化、モビリティ等、さまざまな分野でデジタル・I C Tを活用した先進的サービスの構築が計画されています。これらの先進的サービスの開発を支援するために、A i C Tに入居する各社と保険の検討を開始しました。

(2) オリックス自動車と連携した道路損傷箇所検知の実証実験を開始

A i C Tに入居するオリックス自動車株式会社（社長：上谷内 祐二）が3月1日から次世代モビリティサービス「ワンウェイ（乗り捨て）方式カーシェアリングサービス」の実証実験を開始します。本実証実験において、当社の実験用ドライブレコーダーを搭載した配備車両が走行する道路の画像データを収集し、A Iによる画像分析を通じて道路の損傷箇所を検知する技術検証を行い、降雪量の多い会津若松市の特性に応じた検知機能の最適化を行います。



<ご参考> A i C T内の当社オフィスについて

会津若松市は、磐梯山や猪苗代湖など自然に囲まれ、古い街並みが残る歴史ある会津地方の中心都市です。当社オフィスは、会津若松市の自然と歴史を感じながら、新たなスマートシティの実現に向けてオープンイノベーションを推進するために、開かれたオフィス空間をコンセプトにデザインを行いました。



以 上